

平成25年度 年度計画実績報告

高専番号:19 高専名:福井工業高等専門学校

	福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
<p>【1. 教育に関する事項】</p> <p>(1) 入学者の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き中学校訪問を綿密に行い、中学校教員の高専に対する理解度とプレゼンスの向上に努める。 ・中部日本海5高専共同PRサイトを活用して更なる情報発信を行う。 ・コミュニティーFMや、広報誌を活用して中学生以外の層にもイメージの浸透を図る。 ・中学生に加えて小学生や一般人を対象とした公開講座・出前授業及び自治体主催の企画等により、広い世代と直接触れ合う機会を増やし、科学教育啓発の取り組みと高専のブランド力向上に努める。 ・昨年度設置した情報発信スタジオを利用し、学生主体での情報発信を行い、より近い世代から中学生にアピールを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度設置した情報発信スタジオ(ustream.tv/channel/tannanfm)を活用し、学生目線での情報発信を行い、より近い世代から中学生にアピールを図るサイトを運用するとともに、中学校の求めに応じ学校単位での説明会(16回)を積極的にに行った。 ・中部日本海5高専共同PRサイト(kosen-dream.jp)を継続的に運営し、学生編集委員による各校独自の行事を紹介する記事をサイトに掲載した。今年度は石川高専の高専祭に合わせて学生編集委員会(本校から4人の学生が参加)を行うことで、学生に他校の学校祭を体験してもらい、比較記事を作成し、サイトに掲載した。 ・今年度は24の公開講座を開講し、延べ288人が受講し、その満足度は約97%であった。開講した公開講座の中には昨年度の参加者アンケートを受けて高専の入試対策に関連した内容のものも含まれた。 ・小中学校や自治体と連携した出前授業を20件(延べ1846人程度が受講)実施し、科学教育の啓発を行うとともに高専ブランド力を地域社会に認識させ、高専の存在感をアピールした。 ・地元に対して、コミュニティーFM(高専ライブ、毎週日曜日午前11時から12時)や、広報誌(丹南夢レディオ編集室)を活用して中学生以外の層にもイメージの浸透を引き続き図った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、オープンキャンパスの内容充実を図り、中学校低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるように工夫する。 ・中学校の求めに応じ学校単位での説明会を積極的に行う。さらに、女子学生を確保するために、女子中学生と保護者を対象にした体験学習会を開催する。 ・女子中学生向けに特化したパンフレットや広報誌などを刷新し、積極的にPRを行う。 ・文化的イベントを通して、本校の情操教育の一端を積極的にアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回(5、8、10月)のオープンキャンパスを実施し、その内容充実を図ることで昨年より約130人多い1500人の参加者を得た。 ・昨年度設置した情報発信スタジオ(ustream.tv/channel/tannanfm)を活用し、学生目線での情報発信を行い、より近い世代から中学生にアピールを図るサイトを運用するとともに、中学校の求めに応じ学校単位での説明会(16回)を積極的にに行った。 ・中部日本海5高専共同PRサイト(kosen-dream.jp)を継続的に運営し、学生編集委員による各校独自の行事を紹介する記事をサイトに掲載した。今年度は石川高専の高専祭に合わせて学生編集委員会(本校から4人の学生が参加)を行うことで、学生に他校の学校祭を体験してもらい、比較記事を作成し、サイトに掲載した。 ・今年度は24の公開講座を開講し、延べ288人が受講し、その満足度は約97%であった。開講した公開講座の中には昨年度の参加者アンケートを受けて高専の入試対策に関連した内容のものも含まれた。 ・小中学校や自治体と連携した出前授業を20件(延べ1846人程度が受講)実施し、科学教育の啓発を行うとともに高専ブランド力を地域社会に認識させ、高専の存在感をアピールした。 ・女子学生志願者の確保のため、9月に「女子中学生と保護者のための公開講座・懇談会」を実施し、中学生66人、保護者35人の参加者を得た。中学生の公開講座と懇談会に対する満足度は、それぞれ100%と97%であり、約78%の参加者が高専進学に対する意識を有していた。 ・「キラキラ高専ガールになろう!」と「高専卒女性技術者キャリア冊子」の配布により、女子中学生及び関係者に本校の優れた教育内容と女性技術者の魅力をアピールした。「高専女子百科Jr.(福井高専版)」は、平成26年5月に発行予定である。 ・12月に「クラシックコンサート」を開催し、本校学生のみならず一般社会人145人も参加し、本校が技術者教育のみならず情操教育にも力を注いでいることを広く地域社会にも周知した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの活用を進め、中学生に対する情報発信の強化を図る。 ・各種広報資料は、中学生や保護者が分かりやすく、利用価値の高いものに作り直すように努める。 ・Webの充実にも引き続き取り組み、即時的・効果的な情報発信に努める。 ・地域広報誌に本校の紹介ページを常設で設け、本校の教育活動の広範囲への周知を図る。 ・専攻科志望者の確保のために、専攻科パンフレットの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中部日本海5高専共同PRサイト(kosen-dream.jp)を継続的に運営し、学生編集委員による各校独自の行事を紹介する記事をサイトに掲載した。今年度は石川高専の高専祭に合わせて学生編集委員会(本校から4人の学生が参加)を行うことで、学生に他校の学校祭を体験してもらい、比較記事を作成し、サイトに掲載した。 ・今年度は24の公開講座を開講し、延べ288人が受講し、これまでの満足度は約97%であった。終了した公開講座の中には高専の入試対策に関連した内容のものも含まれた。 ・小中学校や自治体と連携した出前授業をこれまで20件実施し、延べ1846人程度が受講し、科学教育の啓発を行うとともに高専ブランド力を地域社会に認識させ、高専の存在感をアピールした。 ・専攻科パンフレットの内容を見直すとともに、本科生に対しての専攻科説明会を2年生以上の全学年で実施し、志願者は昨年度よりも11人増の38人となった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを発揮できる素養を持った学生など、幅広い人材を求めるために推薦要件を検討する。 ・専攻科志望者の確保のために、専攻科の入試について、その実施時期や要綱などを継続的に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップを発揮できる素養を持った学生など、幅広い人材を求めるために推薦要件の一部を変更し、昨年度よりも16人多い129人の推薦志願者を確保した。 ・よりやる気のある学生を専攻科に迎えるために、平成27年度専攻科入学選抜試験から調査書評定は参考資料にとどめ、面接内容に重点を置くことを決定した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な広報活動を展開し、中学校と連携を取りながら高い志を持った入学志願者の確保に努めるとともに、入学合格者に対して事前課題を与え、緊張感がとぎれることなく本校教育に導入できるような工夫を凝らす。 ・新入生アンケートや指導要録等の分析を通して、入学生質の変化を把握できるように工夫する。 ・就職・進学など進路の多様化、体験に基づく早期専門教育、授業料等の経済性などのメリットを有する高専制度の特徴を様々な機会を通してアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度設置した情報発信スタジオ(ustream.tv/channel/tannanfm)を活用し、学生目線での情報発信を行い、より近い世代から中学生にアピールを図るサイトを運用するとともに、中学校の求めに応じ学校単位での説明会(16回)を積極的にに行った。 ・入学合格者に対して数学と英語の事前課題を与え、本校教育に導入できるように工夫を凝らした。 ・新入生アンケートや指導要録等の分析を通して、入学生質の変化を把握し、学級運営や学生指導に反映した。 ・高専における教育内容や進路および経済性等での特徴をオープンキャンパスや学校説明会等でアピールした。各学科の取組みは以下のとおりである。 <p>機械工学科では、パンフレットの内容を刷新し、オープンキャンパスでのデモ実験を通して機械工学の魅力を中学生にわかりやすくアピールした。主に電気電子工学科で行っている体験に基づく専門教育の内容に対して日本電気協会より最優秀賞を受賞し、そのことが電気新聞に掲載された。</p> <p>物質工学科では、「材料工学・生物工学両面に通じた化学技術者」の育成を目指すために学科紹介パンフレットの刷新、ホームページの充実、及び公開講座(5講座)・出前授業(9件)を実施した。</p> <p>環境都市工学科内に入学生志願者を増加するためのワーキンググループを設け、学科内容を中学生がより理解できるようにホームページ等を適宜更新した。</p> <p>なお、専攻科における取組みとして、次年度の入学予定者に対して、1月下旬に学修内容や心構えを説明した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の高等教育機関における教育内容や制度等に関する情報を参考に、本校の5つのキーワード(機能創成、情報、エネルギー、安全・アメニティー、環境)を基軸とする高度化に向けた教育体制の構築についての議論を引き続き行う。 ・教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。 ・「モデルコアカリキュラム(試案)」と現行カリキュラムとの整合性の確認作業を行い、可能などころから26年度導入に向けた準備を図る。例えば、 【機械工学科・電気電子工学科】創造教育充実を目指して共同で開発した授業教材を導入し、合同でものづくり競技のコンテストを行う。 【電子情報工学科】情報系企業での就職希望者増を踏まえ、ネットワーク系やソフトウェア開発に関する講義内容の検討を行う。また、3D成形システムを活用した実験テーマを導入し、問題点の検討を行う。 【物質工学科】学科カリキュラムの一部再編成・改定も視野に入れて、本学科独自の「コース制(材料工学コース・生物工学コース)」教育カリキュラムにおける「モデルコアカリキュラム(試案)」適用に係る課題について更に詳細に検討する。 【環境都市工学科】これまで実施してきた建設系及び建築系の実験・演習科目を、「モデルコアカリキュラム(試案)」と比較検討することによって充実を図る。 【一般科目教室】技術教育や人間教育を効果的に進めるために、教科内及び教科間での授業展開に関する情報交換を継続し、具体的な教材研究に取り組む。 【専攻科】エンジニアリング・デザイン能力のレベルアップのために、創造デザイン演習の授業で地元企業との連携により、「モデルコアカリキュラム(試案)」のモデルに相当する内容を試行的に導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの本校の将来構想に関する議論、卒業生・修了生に求められる資質等に関する企業アンケートや、全教員を対象にした工学基礎コース・混合学級に関するアンケート結果等を踏まえ、(A)複眼的な工学能力の育成、(B)グローバルな視野から発想・創造できる能力の育成、(C)リーダーシップを発揮して新たなものづくりができる実践的な能力の育成、の三つの観点から本校の高度化の基本方針を定めた。教務委員会の下に設けた教育体制検討専門部会において、定めた基本方針に基づき高度化移行時の教育体制等についての議論を深めている。 ・「モデルコアカリキュラム」と現行カリキュラムとの整合性の確認作業を完了し、可能などころから平成26年度のカリキュラムに導入した。(導入率90%超) <p>機械工学科では、「モデルコアカリキュラム(試案)」との整合性に留意して、創成科目を中心としたカリキュラムの見直しを行い、平成26年度から実施することとした。</p> <p>電気電子工学科では機械工学科との共同でサッカーロボットによるプログラミング演習の授業を実施した。同じハードウェアを用いて同じ内容を実施し、最後に学科対抗のサッカーゲームを行った。アンケート結果から学生の関心度が高く、放課後の自主学習等も積極的に取り組み、総合満足度の高い授業を実施することができた。</p> <p>電子情報工学科では、モデルコアカリキュラムへの適用として、「計算機工学(ハードウェア設計)」の授業科目の充実を図るために、FPGAによる実験環境の準備を進めたが、学生実験で利用するには設備台数が不足しており、今後も設備の充実を目指す。さらに、FPGA関連カリキュラム充実のために「集積回路工学(案)」の座学もしくは実験カリキュラムの検討を行った。また、情報系企業でのネットワーク系技術の必要性を考慮し、3年生のカリキュラムに「情報ネットワーク基礎(案)」などの導入を検討することとした。</p> <p>物質工学科では、「モデルコアカリキュラム(試案)」及び「本校高度化の基本方針と教育体制(案)」適用に係る取組として、現行カリキュラムとの整合性を確認し、その一部再編成・改訂も視野に入れて、独自の「コース制(材料工学コース・生物工学コース)」教育カリキュラム(基軸)におけるその適用に係る具体的な課題について検討した。</p> <p>環境都市工学科では、カリキュラム検討ワーキンググループを設け、社会の変容に即した実験・実習項目を見直し、平成27年度からの実施計画案を定めた。モデルコアカリキュラムへの対応を含め、実験・実習実施上不足する実験機材を平成25年度中に整備した。また、必修科目でのモデルコアカリキュラムへの対応に当たり、一部の講義科目について平成26年度シラバスを見直した。</p> <p>一般科目では、モデルコアカリキュラムにおける到達目標について教科ごとに確認し、授業展開に関する情報交換を行った。また、11月に高知高専の「次世代ICT活用教育プロジェクト」を視察するとともに、東京高専・茨城高専にも英語科教員を派遣し、両校における英語教育等の実践に関わる視察を行った。</p> <p>専攻科では、全国高専教育フォーラムにて「デザイン工学」、「創造デザイン演習」の内容に関する発表を行うとともに他高専の教員とディスカッションできた。「創造デザイン演習」では、前期は地元企業と連携し、より実際の製品開発に近い演習を行い、後期は地元自治体のオープンデータを活用する課題に取組んだ。どちらも外部技術者(本校OB)から助言をもらいながら取組み、外部関係者も含んだ発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p>	

	福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
(2) 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 企業や卒業生へのアンケートを踏まえ、高度化のための議論を深める。また、学生や保護者の志向動向に合わせ、制度制定後8年を迎えた工学基礎コース(括り入試)のメリット・デメリットを洗い出し、今後の在り方を含めて検討する。 他の高等教育機関における教育内容や制度等に関する情報を参考に、本校の5つのキーワード(機能創成、情報、エネルギー、安全・アメニティー、環境)を基軸とする高度化に向けた教育体制の構築についての議論を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの本校の将来構想に関する議論、卒業生・修了生に求められる資質等に関する企業アンケートや、全教員を対象にした工学基礎コース・混合学級に関するアンケート結果等を踏まえ、(A)複眼的な工学能力の育成、(B)グローバルな視野から発想・創造できる能力の育成、(C)リーダーシップを発揮して新たなものづくりができる実践的な能力の育成、の三つの観点から本校の高度化の基本方針を定めた。教務委員会の下に設けた教育体制検討専門部会において、定めた基本方針に基づき高度化移行時の教育体制等についての議論を深めている。
	<ul style="list-style-type: none"> 学生には到達度試験の受験に加え達成度評価シートを作成させ、学生自らが状況を把握するための定点観測としての結果を学生にフィードバックすることで指導に活用する。また、到達度試験などの優秀者に対してインセンティブを設ける。 TOEIC受験を推奨するとともに、実用英語検定と工業英語検定の結果に加えてTOEICやTOEFLスコアも単位化する方向で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年末に、到達度試験の結果並びに達成度評価シートを作成させ、学生自らが1年間の成果を把握・振り返るための機会を提供するとともに学生指導に役立てた。また、到達度試験の優秀者に対して表彰制度を設け、全校学生の前で表彰をすることでモチベーションの確保に努めた。
	<ul style="list-style-type: none"> 前期終了・通年の担当教員変更科目については前期最終週、後期・通年科目については後期最終週にWEBによる授業アンケートを実施する予定である。またアンケート結果は、前期終了・通年の担当教員変更科目については10月頃、後期・通年科目については3月に教員へ返却し、アンケートに関するコメントを収集し、夏頃に学生・教職員へ公開する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全科目を前期最終週と後期最終週に分け、WEBによる授業アンケートを実施した。またアンケート結果は、それぞれの科目については10月と3月に教員へ返却した。アンケートに関する教員側のコメントを4月中に収集し、夏頃に学生・教職員へ公開する予定である。
	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテスト及び高専体育大会に積極的に参加するとともに、そのための環境整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2013東海・北陸地区大会(鈴鹿高専主催)、全国高等専門学校第24回プログラミングコンテスト全国大会(競技部門、自由部門、旭川高専主催)、全国高等専門学校デザインコンペティション2013in米子デザインコンペティション(構造デザイン部門、環境デザイン部門)、第6回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト(沼津高専主催)に参加した。 その他、第7回八光熱の実験コンテスト(株式会社八光電機主催)、パソコン甲子園(会津大学主催)、本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2013全国大会、第9回全日本学生室内飛行ロボットコンテスト、第3回小水力発電アイデアコンテスト(東海北陸地区高専主催)、ロボカップジュニア石川ブロック大会2014、第17回全国高等学校少林寺拳法選抜大会、第37回文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会 全国大会、第37回全国高等学校総合文化祭(囲碁部門)に参加した。このうち、ロボカップジュニア石川ブロック大会2014および第3回小水力発電アイデアコンテストは優勝した。 全国高専体育大会へは、卓球、サッカー、陸上競技、剣道、水泳の7種目に出場し、卓球女子シングルスは優勝、ダブルスは準優勝した。
(3) 優れた教員の確保	<ul style="list-style-type: none"> 学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動への周知、支援を行う。また、学生と学外の人たちのとの積極的なコミュニケーションの場を設けるため、学生に出前授業や公開講座等へのスタッフとしての参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月に寮生会を中心とした10人の学生が、地元の河川敷の清掃活動に参加した。 9月に鯖江市立神明保育所において11人の学生が保育ボランティアに参加した。 10月に96人の学生が参加し、クリーン大作戦を行った。今年は、本校からJR鯖江駅に至る通学路を中心に商店街や住宅地、河川敷、公園などを通る3コースに分かれてゴミ拾いを行った。 9回の出前授業において、延べ42人の学生がスタッフとして出前授業を支援し、延べ1113人の小中学生と交流をした。また、公開講座も15講座において、延べ42人の学生がスタッフとして支援し、202人の小中学生と交流した。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業などでの豊富な実務経験や技術士の資格を有する者、他の教育機関での経験を有する教員や女性教員の採用に向けて努力する。 高専は、後期中等教育と高等教育の二つの教育を行う機関であるという意識を有する者を、様々な手段で見極め採用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は6件の新任教員公募を行い、平成26年度は女性1人を含む4人の教員を新採用することになった。 新任教員の1人は後期中等教育機関での実務経験者で、1人は大学においてURA(研究活動の企画・マネジメント等)担当の経験者である。
	<ul style="list-style-type: none"> 高専・両技科大間教員交流制度の活用により、教育研究活動の活性化と連携を深めるとともに、教育の改善と質の向上に努める。 国内外で活躍している技術士を招聘して教員を対象にした講演会を開催し、資格取得の意義や優位性等を意識付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 高専・両技科大間教員交流制度を活用して、本年度は1人の教員を明石高専に派遣した。 教育研究の発展と活性化のために、1人の教員をドイツの大学に在任研究員として1年間派遣した。 技術士を講師に招聘し、12月に教職員を対象に「技術士及び技術士制度説明会」講演会を開催した。技術士となる人材を輩出する教育機関の教職員として必要な技術士制度の概要や技術士の役割を理解するため開催されたもので、約70人が参加した。 本校主管で第4回フレックスFD合宿研修会を9月に開催し、県内外の教職員や企業技術者など延べ100人を超える参加者があった。福井の高等教育に関する問題について活発な議論を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 教員公募に際しては、専門科目及び一般科目において、それぞれの教員に必要なとされる学位又は資格等を応募要件に明記し、優れた教育力を有する者を採用する。また、高専機構が示す要件に合致する者の割合を下回らないように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は6件の新任教員公募を行い、平成26年度は女性1人を含む4人の教員を新採用することになった。 新任教員の1人は後期中等教育機関での実務経験者で、1人は大学においてURA(研究活動の企画・マネジメント等)担当の経験者である。
<ul style="list-style-type: none"> 教員公募に際しては、『本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。』と明記するなど、男女共同参画を推進し女性教員の採用に向けて、積極的に努力する。 女性教職員より、働きやすい環境整備の在り方についての意見・要望を聴取し、実現可能なものから実施する。 図書館の女子トイレを改修し、快適な環境を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は6件の新任教員公募を行った。この内の5件については、『本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。』と明記するとともに、1件については女性限定の公募であった。この結果、平成26年度は女性1人を含む4人の教員を新採用することになった。 男女共同参画推進専門部会のもとで、女性教職員を対象にした環境改善アンケートを実施し、その中で要望のあった暖房便座を備えた。 	
<ul style="list-style-type: none"> 大学間連携事業(フレックス)のFD学習研修会を本校主催で開催し、参加者増に努めるとともに、教員のスキルアップにつなげる。 昨年度の校長裁量経費の採択、校長表彰や課外活動などで顕著な成果をあげている教職員による講演会を開催する。 数学科・英語科が中心となって運用しているムードルの活用方法についての講習会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校主管で第4回フレックスFD合宿研修会を9月に開催し、県内外の教職員や企業技術者など延べ100人を超える参加者があった。福井の高等教育に関する問題について活発な議論を行った。 6月には、「平成25年度第1回FD講演会」(創造教育開発センター主催)を開催した。この講演会は、「校長表彰や外部表彰などを受けた教職員から、評価された活動や参考となる活動を、他の教職員にも広めることで教職員一人ひとりの今後の業務の励みとする。」ことを目的に実施したもので、今回は平成24年度に校長表彰等を受けた4人(3件)の発表があり、教職員約70人が参加した。 電子黒板の導入を機に、複数の教科において電子黒板を利用した参考教材の作成を検討した。また、電子黒板とタブレット型端末を使用するための講習会を11月に開催し、9人が参加した。 ムードル講習会を7月に開催し、9人が参加した。 	

福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
<p>・教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を対象に、理事長表彰対象者として推薦する。また、校長表彰を行う。</p>	<p>・優れた教授方法等を開発して、教育の向上に寄与した者1人(日本電気協会 エネルギー教育賞)、課外活動等の学生指導で実績をあげた者2人、本校の管理運営に尽力し、実績をあげた者2人、その他、特に他の教職員の模範と認められる行為があった者4人を対象に、年度末に校長表彰を行った。</p> <p>・職務に精励し、その功績が顕著な者2人を、理事長表彰対象者として推薦し、1人が理事長賞の受賞者に決定した。</p> <p>・昨年度の校長裁量経費採択者の内、3人の教員によるプロジェクト実績発表会と、高専両技科大間教員交流制度を活用して豊橋技術科学大学に派遣された教員による教育研究活動の報告会を7月に行った。これらを通して、本校のものづくり教育、英語学習支援や教員のキャリアパス形成に対する意識の向上を図った。</p> <p>・本校主管で第4回フレックスFD合宿研修会を9月に開催し、県内外の教職員や企業技術者など延べ100人を超える参加者があった。福井の高等教育に関する問題について活発な議論を行った。</p> <p>・6月には、「平成25年度第1回FD講演会」(創造教育開発センター主催)を開催した。この講演会は、「校長表彰や外部表彰などを受けた教職員から、評価された活動や参考となる活動を、他の教職員にも広めることで教職員一人ひとりの今後の業務の励みとする。」ことを目的に実施したもので、今回は平成24年度に校長表彰等を受けた4人(3件)の発表があり、教職員約70人が参加した。</p>
<p>・教育研究の発展と活性化のために、国内外での研究員制度を周知するとともに奨励する。</p> <p>・今年度は、在外研究員制度により教員1人をドイツの大学に派遣する。</p>	<p>・教育研究の発展と活性化のために、1人の教員をドイツの大学に在外研究員として1年間派遣した。</p> <p>・高専・両技科大間教員交流制度を活用して、本年度1年間1人の教員を明石高専に派遣した。</p> <p>・8月にJICA北陸が主催する教師海外研修「技術系グローバル人材育成」事業に若手教員2人をベトナムへ派遣した。</p>
<p>・「モデルコアカリキュラム(試案)」と現行カリキュラムとの整合性の確認作業を行い、可能なところから26年度導入に向けた準備を整える。</p> <p>【機械工学科】エンジニアリングデザインとしての基礎能力を養うために、「機械設計技術者3級試験」の資格取得を奨励し、受験対策のための補講を行う。さらに、昨年度他学科と合同で検討して開発した教材を用いた授業を実施する。</p> <p>【電気電子工学科】エンジニアリングデザイン教育を実施し、その情報発信を行う。</p> <p>【電子情報工学科】FPGAなどを用いたハードウェア設計開発のための実験設備導入を図るとともに、これらを利用した実験指導資料などの作成を進める。さらに、実験テキストや講義の予習資料などを、ICT技術を活用して資料の電子化を促進・充実する。</p> <p>【物質工学科】「モデルコアカリキュラム(試案)」適用に係る課題を検討するとともに、基礎科目(低学年)及び専門科目(高学年)におけるより効果的な授業内容とその方法について創意工夫を図り、独自のコース制カリキュラムの改善を目指す。</p> <p>【環境都市工学科】建設系及び建築系の教育カリキュラムにおいて「モデルコアカリキュラム(試案)」、「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集及び全国高専教育フォーラムの講演内容を参考にして、実験・演習系科目の内容の見直しを図る。</p> <p>【一般科目教室】語学や数学教育などで運用中のe-learningについてコンテンツを充実させ、在宅学習支援の教材開発を進める。また、電子黒板とタブレット型端末を活用した効果的なグループ学習の在り方を検討する。</p> <p>【専攻科】創造デザイン演習の授業で地元企業との連携を図っていくことで、エンジニアリング・デザイン能力のレベルアップを図る。</p> <p>・高専機構、長岡技術科学大学のアドバンスコース及び福井県の大学連携事業でのe-learningコンテンツを教材として積極的に活用する。</p>	<p>エンジニアリングデザイン教育に関して、以下の取組みを行った。</p> <p>・機械工学科では、「機械設計技術者3級資格試験」の受験対策のための補講(9講座×3時間)を、10月～11月の土曜日に行い、同資格試験の合格者は5人であった。</p> <p>・電気電子工学科では、電力エネルギー教育用実験実習型教材の提案と開発というテーマで、学内外においてアンケート調査を行い、社会的要求を考慮した上で、設計、開発をチーム単位で行った。また、その成果は電気学会全国大会で発表した。</p> <p>・電子情報工学科では、「情報処理技術者試験」の受験を奨励し、基本情報処理技術者試験に5年生1人、4年生3人が合格した。さらに、moodleサーバや教員のブログなどを利用して計8教科の参考資料を電子化し、学生に配布した。</p> <p>・物質工学科では、国家資格「危険物取扱者(甲種・乙種全類)」取得を奨励し、甲種2人・乙種全類9人が合格した。特に、授業科目「ものづくり科学(1学年・前期)」において、受験対策の教育指導を実施した結果、低学年7人の合格につながった。</p> <p>・環境都市工学科では、「技術士一次試験」「測量士補試験」等の国家試験受験を奨励し、後者には10人が合格した。各種資格試験の受験に対する意識啓発の意味も含めて、導入的な資格である「コンクリート検定」を3年生以上に積極的に勧めた。同資格に関しては初級・中級・上級合わせて31人が合格した。</p> <p>・数学科と応用数学科では、数学検定の受験を奨励し、受験希望者には過去問や問題集の貸与、適宜質問の受け付けや受験指導を行った。7月に12人、12月には10人の学生が本校で団体受験し、2回の受験で、準1級2次合格者1人、2級1次合格者5人、2次合格者3人、準2級1次合格者9人、2次合格者6人、3級合格者1人(以上延べ人数)であった。</p> <p>・数学科では、学校外での自学自習用の、動画コンテンツの作成を始めた。</p> <p>・11月に電子黒板とタブレットの利用講習会を開催し、9人が参加した。</p> <p>・英語科では、STEP英検、工業英検、TOEIC IPの受験奨励を行い、特にSTEP英検においては、1次試験合格者に対して2次試験対策を行った。その結果、今年度10月と1月に実施したSTEP英検において、準2級合格者は57人、2級合格者は10人になり、年度末に優秀学校賞を受賞した。</p> <p>・1年生と2年生の英語の授業においては、eラーニング用教材として、教科書で扱われる語彙の習得や教科書英文の読解練習用としてmoodle上で小テストを自主作成し、授業中だけでなく授業外においても学習も促す形で活用した。4年生の英語の授業においても、単語・熟語や重要構文の習得用のeラーニング用教材を自主作成し、同様に活用した。</p> <p>・これまでの専攻科におけるエンジニアデザイン教育の成果2件(「デザイン工学」、「創造デザイン演習」)を全国高専教育フォーラムにて発表した。さらに、「創造デザイン演習」では、前期、後期ともに地元企業や地元自治体からの課題に取組ませ、外部関係者を含む発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p>
<p>・平成27年度のJABEE継続審査受審に向けて準備を始める。</p>	<p>・2012年度JABEE基準への適合状況を取りまとめ自己点検を行い、概ね適合していることを確認したとともに、次への教育改善へ向けての資料として、各学科長に提示した。</p>
<p>・学生会や寮生会活動を中心に、他高専との交流を図る。</p>	<p>・中部日本海5高専共同PRサイト(kosen-dream.jp)を継続的に運営し、学生編集委員による各校独自の行事を紹介する記事をサイトに掲載した。今年度は石川高専の高専祭に合わせて学生編集委員会(本校から4人の学生が参加)を行うことで、学生に他校の学校祭を体験してもらい、比較記事を作成し、サイトに掲載した。</p> <p>・9月に北陸地区国立高専間の外国人留学生交流会を主管校として実施した。4キャンパスから15人の留学生が福井の伝統工芸を見学、体験し、交流会で親睦を深めた。</p> <p>・5月に舞鶴高専との体育会系の交歓試合を実施し、165人の学生が7競技に参加し、交流を深めた。</p>
<p>・高専教育フォーラムに参加を促し、他高専の優れた事例の収集と紹介を行い、教育活動の活性化につなげる。</p> <p>【機械工学科】「モデルコアカリキュラム(試案)」との整合性に留意し、学科カリキュラムの見直しを行う。</p> <p>【電気電子工学科】「モデルコアカリキュラム(試案)」の取組みについて様々な機会をとらえて情報発信する。</p> <p>【電子情報工学科】近隣大学との学習資源共有のための大学間連携事業(フレックス)などでの取組みや学科での新しい取組みの事例を、高専教育フォーラムでの発表や高専教育へ投稿することなどを旨とする。</p> <p>【物質工学科】「PBL教育」を実施し、様々な機会をとらえて情報発信する。さらに、女性技術者・研究者確保のために、女子学生を対象とした「キャリア教育」の充実を図り、促進する。</p> <p>【環境都市工学科】建設系及び建築系の教育カリキュラムにおいて「モデルコアカリキュラム(試案)」、「エンジニアリングデザイン教育等取組事例集」及び全国高専教育フォーラムの講演内容を参考にして、実験・演習系科目の内容の見直しを図る。また、その内容は平成26年度以降に全国高専教育フォーラム等で発表する。</p> <p>【一般科目教室】「モデルコアカリキュラム(試案)」を踏まえた教科ごとの授業展開についての情報交換を継続し、先行的な取組事例集を参考にしながら教育方法の改善に努める。</p> <p>【専攻科】「モデルコアカリキュラム(試案)」との適用状況の確認と、デザイン工学や創造デザイン演習で実施してきたエンジニアリング・デザイン教育の総括を行い、教育方法の改善を促進する。</p>	<p>・高専教育フォーラムで教職員11人が発表し、本校の事例を紹介するとともに他高専の優れた事例を収集し、本校へのフィードバックを行った。</p> <p>機械工学科では、「モデルコアカリキュラム(試案)」との整合性に留意して、創成科目を中心としたカリキュラムの見直しを行い、平成26年度から導入する。</p> <p>電気電子工学科では、平成25年度全国高専教育フォーラムのモデルコアカリキュラム(試案)導入ワークショップに教員2人が出席した。現在の学科カリキュラムがモデルコアカリキュラムに対応していることを確認し、ホームページで公表した。</p> <p>電子情報工学科では、ものづくり・創造系能力の拡大を目指し、実験カリキュラムの改革に取り組んだ。これらの事例として、高専教育フォーラムや学会講演会などで2件の発表を行った。</p> <p>物質工学科では、「PBL教育」の充実のため、「理科技術教材開発コンテスト(鈴鹿高専主催)」や「八光熱の実験コンテスト((株)八光電機主催)」等の各種コンテスト等の計画・立案・実践・参加について積極的に検討した。また、女性技術者・研究者を育成するための「キャリア教育」として、女子学生(低学年・高学年)を対象にした「先輩(5年生・専攻科生・卒業生)講座」(3講座)を各々実施し、大幅に増加した女子学生に対する進路指導を充実させた。</p> <p>環境都市工学科では、実験演習系科目の内容について、例えば、「デザイン工学」による総合的なエンジニアリングデザイン教育や、建築系カリキュラムの導入によるデザインマインド育成の見直しを行った。</p> <p>一般科目教室では、教員(英語科)1人が高専教育フォーラムにて研究発表をするとともに、他高専の研究発表資料等を収集し、本校における教育改善を検討した。また、教育方法の改善を図るために、11月に電子黒板とタブレットの利用講習会を開催し、9人が参加した。</p> <p>専攻科では、これまでの専攻科におけるエンジニアデザイン教育の成果2件(「デザイン工学」、「創造デザイン演習」)を全国高専教育フォーラムにて発表した。さらに、「創造デザイン演習」では、前期、後期ともに地元企業や地元自治体からの課題に取組ませ、外部関係者を含む発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p>

	福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
の 質 の 向 上 ・ 改 善	<p>・教育研究活動の結果を年度末に自己点検評価報告書としてまとめるとともに、外部有識者会議による提言等を参考にし、次年度に向けて改善を図る。</p> <p>【機械工学科】創成科目や実技系科目を通して実践的なものづくりセンスと創造力を育成するとともに、「エンジニアリングデザイン教育取組事例集」など他高専の事例内容を調査し、教育方法の改善について検討する。</p> <p>【電気電子工学科】教研集会等での他高専の「モデルコアカリキュラム(試案)」取組事例の発表や、「エンジニアリングデザイン教育取組事例集」を参考に、教育方法について検討する。</p> <p>【電子情報工学科】実践的な技術習得を目指し、企業技術者からの助言を参考に、実験・講義内容に関する改善点の検討する。また、KOALAIに掲載されている事例で、適用可能なものについて検討する。</p> <p>【物質工学科】化学技術者に必要不可欠なコミュニケーション基礎能力の育成、実験・実習レポート作成能力及びプレゼンテーション能力の向上を目的とした授業内容・方法について検討する。</p> <p>【環境都市工学科】建設系及び建築系の教育カリキュラムにおいて「モデルコアカリキュラム(試案)」、「エンジニアリングデザイン教育取組事例集」及び全国高専教育フォーラムの講演内容を参考にし、実験・演習系科目の内容の見直しを図る。</p> <p>【一般科目教室】「モデルコアカリキュラム(試案)」を踏まえながら、クラスごとの授業実践に関して、教科間での定期的な情報交換を実施し、教育改善を図る。</p> <p>【専攻科】「モデルコアカリキュラム(試案)」との適用状況の確認と、デザイン工学や創造デザイン演習で実施してきたエンジニアリング・デザイン教育の総括を行い、教育方法の改善を促進する。さらに、平成24年度に受審した認証評価及びJABEE中間審査の指摘事項を吟味して、教育改善を図る。</p>	<p>・本年度実施した教育研究活動の結果を自己点検評価報告書としてまとめるとともに、年度末にはこれに基づいて外部有識者会議を開催した。外部有識者会議での助言・提言を踏まえ、次年度はより効果的・効率的な教育研究活動になるように改善を図る。</p> <p>機械工学科では、創成科目や実技系科目を通して実践的なものづくりセンスと創造力を育成するとともに、カリキュラムの見直しにおいては他高専の取組みを参考にしつつエンジニアリングデザイン教育の一つとして製図と工作実習を融合した総合実習の導入を検討を行った。</p> <p>電気電子工学科では、教育方法を検討した結果、授業の一環として工場見学を取り入れ、班(学生5人程度)ごとに見学テーマを決め、そのテーマに関する事前調査を行い、見学後そのテーマに関してプレゼンテーションを課すこととした。</p> <p>電子情報工学科では、4年創造工学演習において本校OBの企業技術者を非常勤講師として任用し、システム開発などの指導を行った。指導を受けた学生は、作品を全国高専プロコンの自由部門本戦に参加し成果が得られた。</p> <p>物質工学科では、高学年における化学技術者に必要不可欠なコミュニケーション基礎能力の育成と実験・実習レポート作成能力及びプレゼンテーション能力の向上を目的とした専門科目の授業内容・方法について検討した。その結果、学生実験・実習報告会、校外実習報告会、卒業研究発表会等における効果的なプレゼンテーションのための教育指導を行った。</p> <p>環境都市工学科では、カリキュラム検討ワーキンググループを設け、社会の変容に即した実験・実習項目を見直し、平成27年度からの実施計画案を定めた。モデルコアカリキュラムへの対応を含め、実験・実習実施上不足する実験機材を整備した。また、必修科目でのモデルコアカリキュラムへの対応に当たり、一部の講義科目について平成26年度シラバスを見直した。また、年度末に開催された「第20回 高専土木系工学教育の諸問題を話す会」に出席し、他高専等土木系学科における優れた取り組みやモデルコアカリキュラムへの具体的対応に関する情報を収集した。</p> <p>一般科目では、各教科において、定期的に教科会を開催し、授業方法、教育内容について討議・検討し、教育改善を図った。</p> <p>専攻科では、これまでの専攻科におけるエンジニアデザイン教育の成果2件(「デザイン工学」、「創造デザイン演習」)を全国高専教育フォーラムにて発表した。さらに、「創造デザイン演習」では、前期、後期ともに地元企業や地元自治体からの課題に取組ませ、外部関係者を含む発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p>
	<p>・本科4年生及び専攻科1年生の学生全員に対し、インターンシップの推進と充実を図る。</p> <p>・専攻科では創造デザイン演習の単位を1単位増やし、地元企業との連携を充実することで、エンジニアリング・デザイン能力のレベルアップを図る。</p>	<p>・夏季休業期間中に、本科4年生は1～2週間、専攻科1年生は4週間のインターンシップを全学生が参加して実施し、10月にはその報告会を開催した。なお、専攻科生3人は海外でのインターンシップに参加した。また、インターンシップ先には本校教員が分担して訪問し、就職開拓にもつなげている。</p> <p>・本校独自の海外インターンシップ先として、タイの日系企業が学生の受け入れを検討してもらえることとなった。来年度の専攻科1年生にそのことをアナウンスしたところ、同社でのインターンシップを希望する学生が1人いた。</p> <p>・専攻科「創造デザイン演習」では、前期は地元企業と連携し、より実際の製品開発に近い演習を行い、後期は地元自治体のオープンデータを活用する課題に取り組んだ。どちらも外部技術者(本校OB)から助言をもらいながら取り組み、外部関係者を含む発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p> <p>・9月に奈良で開催されたISATE2013に教員(3人)及び学生(1人)が参加し、学生がポスター発表を行うとともに、参加した国内外の教員との相互交流を図った。</p> <p>・香港VTCで11月に開催されたISTS2013に学生(2人)及び教員(2人)が参加し、学生が研究発表を行った。</p>
	<p>・前年度に引き続き、企業技術者等活用プログラムに「地域の匠を活用した科学クラブの共同教育」のテーマで応募し、活動の継続を目指す。</p>	<p>・企業技術者等活用プログラム「地域の匠を活用した科学クラブの共同教育」の支援を受け、10人の企業人材を招聘し、学生と教員への教育を実施した。</p> <p>・専攻科では地元企業と連携し、製品開発を模擬した演習を実施した。この演習に協力して頂く企業を募集するため、テクノセンターのニュースレターに協力依頼文を掲載し、地域連携アカデミア会員等に呼びかけた。</p> <p>・専攻科「創造デザイン演習」では、前期は地元企業と連携し、より実際の製品開発に近い演習を行い、後期は地元自治体のオープンデータを活用する課題に取り組んだ。どちらも外部技術者(本校OB)から助言をもらいながら取り組み、外部関係者を含む発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p>
	<p>・長岡技術科学大学のアドバンスコースを積極的に活用し、広域視野を持った人材育成に取り組む。</p> <p>・三機関連携事業に参加し、またISTS2013やISATE2013に対して複数の学生・教員を積極的に派遣することで、教育研究の広域相互交流を図る。</p>	<p>・専攻科「創造デザイン演習」では、前期は地元企業と連携し、より実際の製品開発に近い演習を行い、後期は地元自治体のオープンデータを活用する課題に取り組んだ。どちらも外部技術者(本校OB)から助言をもらいながら取り組み、外部関係者を含む発表会で最終プレゼンテーションを実施した。</p> <p>・9月に奈良で開催されたISATE2013に教員(3人)及び学生(1人)が参加し、学生がポスター発表を行うとともに、参加した国内外の教員との相互交流を図った。</p> <p>・香港VTCで11月に開催されたISTS2013に学生(2人)及び教員(2人)が参加し、学生が研究発表を行った。</p> <p>・長岡技術科学大学のアドバンスコースを積極的に活用し(学生19人参加)、視野の広い人材育成に引き続き取り組んでいる。</p> <p>・教育研究力強化FDの海外派遣制度を活用して、教員1人をアメリカへ派遣した。</p> <p>・9月に奈良で開催されたISATE2013に教員(3人)及び学生(1人)が参加し、学生がポスター発表を行うとともに、参加した国内外の教員との相互交流を図った。</p> <p>・豊橋技術科学大学との教員間連絡会に参加するとともに、大学への興味を涵養するために見学会に積極的に参加するように勧めた。</p>
	<p>・語学や数学教育などで運用中のe-learningについてコンテンツを充実させ、在宅学習支援の教材開発を進める。また、電子黒板とタブレット型端末を活用した効果的なグループ学習の在り方を検討する。</p> <p>・長岡技術科学大学のアドバンスコースを実施する上で導入したTV会議システムを利用する授業の充実と向上を図る。</p>	<p>・電子黒板の導入を機に、複数の教科において電子黒板を利用した参考教材の作成を検討した。また、電子黒板とタブレット型端末を使用するための講習会を11月に開催し、9人が参加した。</p> <p>・ムード講習会を7月に開催し、9人が参加した。</p> <p>・長岡技術科学大学のアドバンスコースの数学については、過去2年間の授業をすべてメディアサイトを用いて録画し、DVDを貸し出した。</p>
<p>・学生に対してきめ細やかな対応をするため担任と副担任の連携をより強化して、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実を図る。</p> <p>・学生相談室において学生のメンタルヘルス管理を十分に行う。また、関係教職員のスキルアップのため校内外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ積極的に参加する。</p> <p>・特別支援室において、障害を有する学生に対する支援を継続して行う。</p> <p>・精神科医などと連携し、学生相談の体制を充実を図る。</p> <p>・平成25年度専攻科1年生には3人の他高専からの入学生が含まれ、学生支援及び生活支援の観点から適切な指導を行う。</p>	<p>・メンタルヘルスの充実を図るために、市内の精神科医が隔月で来校し相談業務を行うほか、随時、電話などでの相談にも応じてもらえる体制を整備した。</p> <p>・4月に実施した新入生オリエンテーションにおいて、1年生の全学生を対象に、学生主事及び学生相談室長が高専の学生としての心構え、学校生活の過ごし方などについて説明した。</p> <p>・年度当初に、1年生の全クラスをカウンセラーが訪問し、カウンセリング体制についての紹介を行った。</p> <p>・全学年にQ-Uテストを実施し、9月に教員対象にその結果の活用研修会(30人参加)を開催し、クラス経営の一助とした。</p> <p>・全クラス対象の「高専生活に関するアンケート」を11月に実施し、その結果を受けて、相談が必要と思われる学生を対象に個人面談を実施した。</p> <p>・6月に全寮生を対象にしたメンタルヘルスについての講演会と、エゴグラム作成ワークショップを2回開催した。</p> <p>・7月に教職員対象のメンタルヘルス研修会として、NPO法人「大人の発達障害の会」代表による「発達障害といきること」と題した講演を開催し、80人の教職員が参加した。</p> <p>・2月に精神科医による講演会「心の健康と病気について」を開催し、69人の教職員が参加した。</p> <p>・特別支援室において、障害を持つ学生に対する支援を引き続き行っている。</p> <p>・学生相談室員のスキルアップのために、県内外の研修会(学生相談・メンタルヘルス研修会、生涯学生修学支援事例研究会など)10件に、述べ13人の関係者が参加した。</p> <p>・優秀で学習意欲が旺盛な専攻科生のために、授業料免除に関する専攻科生の成績規準を席次からGPAへ変更した。</p>	
<p>・図書館の老朽・狭隘に伴う改修工事を実施する。</p> <p>・学寮生活アンケートも参考に現状点検を行い、優先順位を検討して整備を図る。</p> <p>・寮生活の改善を寮生会と協力して行い、寮生会活動の活性化を図る。また、寮生の生活面での指導や精神面での相談を適宜行い、寮生活の支援を充実していく。</p> <p>・寮生の健康管理の観点から、利用可能となった各居室のエアコンの運用利用についての課題を明確にする。</p> <p>・女子学生の志願者確保に向けて、女子寄宿舎の拡充を検討する。</p>	<p>・女子学生が年々増加していることに伴い、女子寮の収容定員の増加について、その可能性を検討したが、極めて困難であるとの結論に至った。</p> <p>・平成24年度に居室エアコンの整備が完了したことから、平成25年の夏に既存ボイラー設備・配管を撤去することにより居住スペースの改善を図った。</p> <p>・図書館の老朽・狭隘に伴う改修工事を実施し2月末に竣工し、次年度4月開館の運びとなった。より清潔で明るい閲覧室やパソコン、メディアコーナーに加えて、新規にアクティビティルームを設け、学生のグループ学習の支援を行なえるようになった。またコミュニティプラザでは学生がくつろいで談笑できる仕置を整備し、コミュニティールームも利用目的に応じて、部屋の広さを変えて使用できるようにした。</p>	

	福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
（５）学生支援・生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学生支援機構奨学生は63人であった。 ・家庭の経済事情により学費の支弁が困難な学生に対し、教育後援会の給付型の奨学奨励金交付の案内を行い、5人に交付した。 ・その他、福井県高等学校奨学生6人、越前市高等学校奨学生2人、あしなが育英会3人、樫の芽会1人、吉岡奨学会2人であった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや携帯電話から求人状況等を検索できる、求人票閲覧・管理システムの利用を促進する。 ・「キャリア教育セミナー（合同企業説明会）」や「大学・大学院合同説明会」を開催することにより、企業情報、就職・進学情報などの学生への提供体制を充実する。 ・キャリア教育講演会、先輩講座、就職対策講座等の行事を企画し、全学年を通したキャリア教育の充実を図る。 ・専攻科における進路に関する情報提供の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動の利便性向上のため、平成24年度に構築した本校専用の求人サイトに関して、就職希望学生に対する利用法の説明会を10月に開催するとともに、合同企業説明会の情報掲載等の改善を行った。これらにより、学生は、自分のパソコンや携帯電話から求人状況を検索することにより、主体的な企業研究のツールとして活用できた。これを含めた企業情報の提供に対する学生の満足度は昨年度の80%から85%に向上した。 ・12月に「キャリア教育セミナー（合同企業説明会）」を3、4年生と専攻科1年生全員を対象に開催した。昨年度より出展企業等が90社から104社に増加し、学生の満足度も83%から90%に向上した。 ・進学関係では、10月に8大学と11大学院による「大学・大学院合同説明会」を開催し、昨年度より約2倍の111人の学生が参加した。また、1月に3、4年生全員に対し、専攻科説明会を開催した。 ・低学年のキャリア教育として、前期は1～3年生にキャリアガイダンスを実施した。後期は1、3年生に対して企業経営者による職業研究セミナー、2年生に対しては本科5年生と専攻科生が講師となる先輩フォーラムを開催した。特に先輩フォーラムは、参考になったと回答した学生が98%もあり、好評であった。なお、ガイダンス等の時間を用いて、キャリアポートフォリオの作成を指導した。 ・本科4年生と専攻科1年生を対象に、企業から講師を招き、年3回（7月、10月、2月）就職対策講座を系統的に開催した。昨年度より講演内容を改善した結果、「役立つ」と回答した学生は98%となり、非常に好評であった。 ・長期的視野に立ったキャリア教育を支援するため、低学年からキャリアポートフォリオを作成させた。さらに、これら施策をより効率的に実施するため、次年度よりこれまでの組織をキャリア支援室と改称し、より充実した学生支援ができるようにした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害により被災した学生に対して、授業料免除等の経済的支援情報の提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学費負担者が風水害等の被害にあった学生に対し、入学料免除及び前期授業料免除の案内を行い、1人の学生が入学料及び前期授業料が全額免除となった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、平成23年度より取組んでいる「服育」について、1年生には4月に、また2年生には10月に外部講師を招いて講演会を開催し、学生の服装、身だしなみ全般についての意識向上を図った。 ・4年生の全学生を対象に薬物乱用に関する講演会を5月に開催した。7月には、2年生を対象に「煙草の害について」、3年生を対象に「交通講話」、11月には、5年生を対象とした「税と社会保障」および12月に1年生を対象とした「性教育」の講演会をそれぞれ開催した。 ・鯖江消防署職員を講師とした、熱中症対策も含めたAED講習会を8月に開催し、29人の学生が参加した。
（６）教育環境の整備・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者増等による狭隘化解消のための図書館改修及び地域連携テクノセンターの耐震改修を行う。これらの改修に際しては、バリアフリー化対策としてエレベータの設置と、人感センサーによる照明装置等の省エネ機器を導入する予定である。 ・総合情報処理センターと本館の連絡通路(渡り廊下)の耐震改修を行う。 ・障害を有する学生の在学に伴うバリアフリー化対策としての営繕事業の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備補助事業により図書館及び地域連携テクノセンター棟の改修を行った。これらの改修に伴って、人感センサーによる照明装置等の省エネ機器を導入するとともに、図書館では入館者増による狭隘化解消、地域連携テクノセンターではバリアフリー化対策としてエレベータの設置を行った。さらに、改修前の図書館で使用されていたLED蛍光灯を総合情報処理センター演習室等で再利用するなどして有効利用を図った。 ・総合情報処理センターと本館との連絡通路(渡り廊下)の耐震改修を行った。 ・障害を有する学生の学年進行に伴うバリアフリー化対策として、学内予算で機械工学科棟1階各実験室入口の段差解消の改修を行った。 ・施設整備委員会の下に専門部会を設置し、本校の将来構想に対応した新たなキャンパスマスタープランの策定に着手した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・機械実習工場の約半分の床面を改修整備するとともに、安全性確保の観点から工作機械のレイアウトを変更した。また、補正予算事業により、汎用精密旋盤、CNC旋盤、立フライス盤、ホブ盤、平面研削盤、ワイヤ放電加工機、鍛造加熱炉、コンタマシンの設備を更新した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者増等による狭隘化解消のための図書館改修及び地域連携テクノセンターの耐震改修を行う。これらの改修に際しては、バリアフリー化対策としてエレベータの設置と、人感センサーによる照明装置等の省エネ機器を導入する予定である。 ・総合情報処理センターと本館の連絡通路(渡り廊下)の耐震改修を行う。 ・障害を有する学生の在学に伴うバリアフリー化対策としての営繕事業の推進を図る。 ・省エネ化対策方針に基づいて、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し、省エネを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備補助事業により図書館及び地域連携テクノセンター棟の改修を行った。これらの改修に伴って、人感センサーによる照明装置等の省エネ機器を導入するとともに、図書館では入館者増による狭隘化解消、地域連携テクノセンターではバリアフリー化対策としてエレベータの設置を行った。さらに、改修前の図書館で使用されていたLED蛍光灯を総合情報処理センター演習室等で再利用するなどして有効利用を図った。 ・総合情報処理センターと本館との連絡通路(渡り廊下)の耐震改修を行った。 ・障害を有する学生の学年進行に伴うバリアフリー化対策として、学内予算で機械工学科棟1階各実験室入口の段差解消の改修を行った。 ・夏季及び冬季時には空調設定温度の徹底を喚起し、教職員が巡回により確認するとともに、エレベータの使用についても制限を設け、電力消費は前年度比2.3%の削減となった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス、救急救命等に関する講演会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺予防やうつ対応などのメンタルヘルス講習会を6月と7月に（延べ参加人数331人）、並びに救急救命法の講習会を8月、9月と12月に（延べ参加人数89人）定期的に実施するとともに、カウンセラーや精神科医の定期来校をお願いし学生・教職員のメンタルケアに努めた。 ・実験実習系の教科には必ず安全教育の項目を設け、安全教育の充実を図った。
【2.研究に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国高専テクノフォーラム」等に参加・出展して、本校の研究成果の情報発信を行い、他高専との共同研究のための交流を行う。 ・産官学連携コーディネーターの任用について検討する。 ・外部研究資金の獲得のための申請件数の増加に向けた具体策を検討し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高専テクノフォーラム（8月）、イノベーションジャパン大学見本市（8月）、TechBizEXPO（10月）、エコプロダクツ（12月）に延べ12人の教員を派遣し、6件の共同研究等の成果を発表した。 ・共同教育コーディネーター1人を任用し、地域連携アカデミア会員企業のニーズと本校教員のシーズとのマッチングコーディネート活動を19社に対して行った。 ・外部的競争資金公募一覧を学内メールにて定期的に各教員に配信した。 ・外部から有識者2人を招聘して、科学研究費助成事業に関する説明会と講習会を9月に開催し、約60人が参加した。 ・9月に開催された平成26年度科学研究費助成事業公募要領等の説明会に、教員1人、職員2人を派遣した。 ・科学研究費申請者数の増加に向けた取組みとして、校長等による申請書内容の確認と事務職員による記入漏れ等の簡易ミスチェックを実施した。 ・本年度の科学研究費補助金の採択は、前年度よりも3件増の11件であった。 ・共同研究は、前年度よりも4件増の16件であった。また、奨学寄付金は6件増の26件であった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催されるマッチングイベント等に参加・出展して、研究活動の成果を広く発信する。 ・「ジョイントフォーラム」や「アカデミア企業見学会」の開催を通して、知的資源の紹介と、地域のニーズの把握に努め、産業界との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発事業の公募情報をメール等で教職員に発信した。 ・武生商工会議所との共催で異業種交流会（2月）を開催し、本校教員の研究シーズを紹介した。参加者は56人であった。 ・テクノセンター主催事業としてジョイントフォーラム（11月）を開催し、新任教職員を含む8人の研究シーズ発表や2社の企業紹介を行い、産業界との連携を図った。参加者は74人であった。 ・テクノセンター主催事業としてアカデミア企業見学会（3月）を開催し、メガネ産業会との連携を図った。参加者は28人であった。 ・ニュースレター、活動情報誌JOINT、ホームページ等を利用し、地域社会に地域連携テクノセンターの活動と教職員の研究を紹介した。

	福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> 産官学連携コーディネーターの任用について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産講習会ならびに個別相談会を1月に開催し、教職員の知的財産の資産化に向けた意識啓発を行った。参加者は70人であった。 イノベーションジャパン大学見本市(8月)とFITネット商談会(11月)に特許を所有する教職員を延べ3人派遣し、研究シーズを発表した。 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業中間報告会(9月)、国際知的財産活用フォーラム(1月)、ふくい知財フォーラム(3月)に教員を延べ5人派遣し、知的財産の資産化に関する情報収集を行った。
【3. 社会との連携、国際交流等に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携テクノセンター棟の改修にあわせ、施設や設備の活用方法を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員への技術相談は57件あり、その内4件が共同研究に進展した。民間等との共同研究の受入れは11件、研究費を伴わない研究課題は10件であった。また、伝統産業支援室で行っている福井県和紙工業組合からの受託試験は122件であった。 アントレプレナーサポートセンターには新規1人の入居があり、計5人が起業活動に取組んだ。また、内1人が福井県内でIT関係の会社を起業する成功事例が生まれた。 本校地域連携テクノセンター主催のマグネットコンテストには、全国の小中高校、高専、大学の計23校より1,844件の応募があり、2月に表彰式を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ニュースレターと活動紹介誌(JOINT)の発行、さらにホームページのコンテンツの充実を図り、地域社会に地域連携テクノセンターの活動と教職員の研究を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ニュースレター、活動情報誌JOINT、ホームページ等を利用し、地域社会に地域連携テクノセンターの活動と教職員の研究を紹介した。 地域連携テクノセンター主催事業として、活動情報誌JOINTを配付し、ジョイントフォーラム(11月)とアカデミア企業見学会(3月)を開催し、地域の企業と、メガネ産業会との連携を図った。参加者はそれぞれ、74人と28人であった。
	<ul style="list-style-type: none"> 地元自治体並びに小中学校や公民館等と連携し、ものづくりやデモ実験を中心とした出前授業に積極的に参画し、理科教育支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校と連携した出前授業を20件(延べ1846人が受講)実施した。実施した出前授業に対する満足度は約90%であった。 丹南産業フェア(9月)、越前市いまだて芸術館での科学イベント(10月)、鯖江ものづくり博覧会(11月)に出展し、延べ約1500人を対象に、本校のプレゼンスをアピールした。
	<ul style="list-style-type: none"> 公開講座・出前授業の数と内容の充実を図り、高い満足度が得られるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は24の公開講座を開講し、延べ288人が受講し、その満足度は約97%であった。開講した公開講座の中には、昨年度の参加者アンケートにおける要望を受けて高専の入試対策に関連した内容のものも含まれた。
	<ul style="list-style-type: none"> 創立50周年に向けて、同窓会との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月に創立50周年記念事業実行委員会を立ち上げ、外部の委員として同窓会会長のほか、教育後援会会長、教職員OB会会長及び地域連携アカデミア会長に委員を委嘱して、6月及び3月に開催した同実行委員会で実施計画等を説明し、記念事業等に対する積極的な協力を要請した。
	<ul style="list-style-type: none"> 高専機構が包括学術交流協定を結んでいる海外の教育機関との交流を促進する。 ISTS2013やISATE2013に対して複数の学生・教員を積極的に派遣することで、教育研究の広域相互交流を図る。 本校が締結しているパララット大学(豪州)との間で、ビデオレターの交換などの交流活動を行う。 教育研究の発展と活性化のために、国外での研究員制度を周知するとともに奨励する。今年度は、在外研究員制度により教員1人をドイツの大学に派遣する。 プリンスオブソクラ大学工学部(タイ)と学術交流に関する覚書を締結し、交流を促進する。 JICA北陸が開催を予定している事業への参加を、教員に奨励する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月に、プリンスオブソクラ大学工学部(タイ)と国際交流覚書を締結し、8月には2人の専攻科生を派遣し、1カ月間にわたるインターンシップを行った。 9月に、テマセクポリテクニク(シンガポール)に学生1人を技術英語研修のため派遣した。また11月には見学旅行として電気電子工学科3年生(43人)が香港VTCを訪問し、電子情報工学科3年生(40人)が台湾の聯合大学を訪問した。 8月に、教員2人がJICA北陸主催の研修事業「技術系グローバル人材育成事業(ベトナム)」に参加し、帰国後には学内で報告会を開催した。 9月に、高専機構が実施している海外インターンシップ(日本ユニシス、ベトナム)に専攻科生1人を派遣した。 9月に、国立青少年教育振興機構による「日独学生青年リーダー交流事業」に学生1人を派遣した。
	<ul style="list-style-type: none"> 中部日本海高専国際化推進委員会のメンバー校として、海外インターンシップ先の開拓に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自の海外インターンシップ先として、タイの日系企業が学生の受け入れを検討してもらえることとなった。来年度の専攻科1年生にそのことをアナウンスしたところ、同社でのインターンシップを希望する学生が1人いた。
	<ul style="list-style-type: none"> 資質の高い留学生を積極的に受入れ、国際貢献と異文化交流に努める。 これまでの短期留学生の受入れ実績に基づいて、受入れ態勢とシステムの整備を進める。 留学生と寮生との交流の実が上がるように、歓迎会・交流会の実施など学生寮としてのプログラムを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> マレーシア、モンゴル、インドネシアの国々から計6人の留学生を受入れた。5月に開催された寮祭では、それぞれのお国自慢並びに郷土料理大会を開き、日本人寮生との交流を深めた。 12月に、地元鯖江市の国際交流協会会員と外国人留学生との懇談会を開催し、校長をはじめ外国人留学生6人、チューター・指導教員・学校関係者を含む総勢38人が参加した。 学生寮としての留学生受入れ体制については、短期の留学生のための寮生活の手引き書等を昨年度までに作成した。今年度は、男子短期留学生の受入れのためにこれらの手引書を点検し、改訂した。 学寮内の留学生居室にはインターネット環境を整備した。また、自炊することが可能な補食談話室を準備した。昨年度末には、男子留学生の居室・シャワー室・補食談話室の修繕と改装を行い、今年度4月からは整備された環境で寮生活を送っている。
	<ul style="list-style-type: none"> 北陸3県の高専で協力しながら、各高専に在学する留学生相互の交流会を実施する。本年度は、本校が企画・主催する予定である。 留学生との交流の活性化を図るために、本校の独自の研修等を企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度北陸地区国立高専間の外国人留学生交流会を9月に本校主催で開催し、北陸地区高専の4キャンパスから、留学生15人、教職員13人が参加した。 12月に、地元鯖江市の国際交流協会会員と外国人留学生との懇談会を開催し、校長をはじめ外国人留学生6人、チューター・指導教員・学校関係者を含む総勢38人が参加した。 1月に、外国人留学生にとって経験の少ないウィンタースポーツの体験研修を、外国人留学生5人、チューター3人、教職員4人が参加してスケートの体験研修を行った。
【4. 管理運営に関する事項】	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育方法改善、産業界との交流促進、モノづくり活動のためのプロジェクト、本校の発展に貢献する研究等を募集し、7月に16件のプロジェクトに対してヒアリングを実施し、13件について校長裁量経費を配分した。 8月に、校長裁量経費にて機械実習工場の約半分の床面を改修整備した。 学生を対象とした「キャンパスプロジェクト(課題部門、自由部門)」を募集し、6件に対して校長裁量経費を配分した。

	福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
	<ul style="list-style-type: none"> 本部開催の研修会や国立大学等の研修会に参加する。 高専機構の高専間相互監査や学内定期監査等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月に、全教職員に対して「コンプライアンスに関するセルフチェック」を実施(回収率100%)した。 2月には全教員を、また3月には全職員を対象に、機構作成の「コンプライアンスマニュアル-教職員の行動指針-」に基づき、会計検査院で指摘された具体的事例に係る適正な会計処理及びコンプライアンスの推進について講習会を実施し、教職員の意識向上を図った。 10月、11月及び2月の教員会議で校長から、公的資金の取り扱いの重要性とともに適正な会計処理や物品管理について、意識の向上と徹底を図るよう注意喚起がなされた。
	<ul style="list-style-type: none"> 高専相互会計内部監査を実施し、他高専と情報を共有して可能なものから改善する。また、学内定期監査も実施し不正経理を防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年度、高専相互会計監査を実施しており、今年度は石川高専から関係職員が派遣されてきた。また、学内定期監査も、毎年度、実施しており今年度も実施済である。これらの監査により情報共有が図られ、また、不正経理が防止されている。
	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、高専機構本部から配布された緊急連絡用のPHS電話機等を適正な場所に配置する。 各クラス担任と学生との緊急連絡体制を維持し、緊急時に備える。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度と同様、緊急連絡用のPHS電話機を教務主事、総務課長及び学生課長席に配置するとともに、自治体から供された防災無線の受信機を守衛所等に配備して緊急時に備えている。 緊急連絡体制は、従来のクラスごとの緊急連絡網に加えて、昨年度整備したSNSを活用したTwitterやFacebookによる連絡体制で運用している。
	<ul style="list-style-type: none"> 管理職研修会等に教員を派遣する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に開催された機構主催の「新任校長研修会」に校長が参加した。 9月に開催された機構主催の「管理職研修」に専攻科長(校長補佐)が参加した。
	<ul style="list-style-type: none"> 機構本部で作成したマニュアルや本校内部規則を熟知させ、事務停滞を起こさないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 機構本部で作成したマニュアルや本校内部規則を学内共有ホルダーにアップし、常時閲覧可能にすることで周知を図った。
	<ul style="list-style-type: none"> 他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。 職務に関して、高く評価できる職員に対して毎年度実施している校長表彰を、継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他機関が実施する研修会等に職員を下記のとおり参加させ、知識習得及び資質向上を図った。 ①北陸地区国立大学法人等初任者研修(国立大学法人金沢大学主催)2人 ②東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(大学共同利用機関法人自然科学研究機構主催)1人 ③リーダーシップ研修(国立大学法人金沢大学主催)1人 ④東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会(国立大学法人三重大学主催)1人 ⑤北陸地区国立大学法人等新任係長級研修(国立大学法人富山大学主催)1人 ⑥北陸地区国立大学法人等中堅職員研修(国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学主催)1人 ⑦北陸地区国立大学法人等人事労務研修(国立大学法人福井大学)1人 国際化に対応した職務に必要とする語学力向上を図るため、語学研修を8月から1月にわたって実施し、11人が受講した。 課外活動等の学生指導で実績をあげた者1人、本校の管理運営に尽力し、実績をあげた者2人、その他、特に他の職員の模範と認められる行為があった者3人を対象に、年度末に校長表彰を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 近隣大学等との人事交流を引き続き積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務部門職員について、近隣の大学との間で7月1日付け5人、10月1日付け1人の人事交流を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に導入した校内LANシステムを、十分な情報セキュリティ対策を講じて運用する。 教職員等の情報セキュリティに対する意識向上を図るための講習会等を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 10月に教職員を対象に情報セキュリティ教育講習会を開催し、60人が受講した。 10月受検した高専機構の情報セキュリティ監査の結果を踏まえ、3月に情報セキュリティインシデント対応手順を策定し、学内の体制整備を図った。
<p>【5.その他】</p>		
<p>Ⅱ。業務運営の効率化に関する目標を達成するために取りべき</p>	<ul style="list-style-type: none"> 契約にあたっては、原則、仕様策定による一般競争契約とし、競争性や透明性を高める。 複数年契約を実施し業務の効率化を図る。 給与支給明細書のWEB承諾率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 機構本部からも契約の競争性や透明性を求められており、原則一般競争契約を実施している。 複写機の賃貸借契約や健康診断について複数年契約を実施している。今年度は外部接続回線サービスについても複数年契約を実施した。 給与支給明細書のWEB承諾率を高め、常時上位にランクされている。
<p>Ⅲ。予算、収支計画及び資金計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得のための申請件数の増加に向けた具体策を実施する。 校長のリーダーシップを発揮し、効果的・効率的な予算配分を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部的競争資金公募一覧を学内メールにて定期的に各教員に配信した。 外部から有識者2人を招聘して、科学研究費助成事業に関する説明会と講習会を9月に開催し、約60人が参加した。 9月に開催された平成26年度科学研究費助成事業公募要領等の説明会に、教員1人、職員2人を派遣した。 科学研究費申請者数の増加に向けた取組みとして、校長等による申請書内容の確認と事務職員による記入漏れ等の簡易ミスチェックを実施した。 教育方法改善、産業界との交流促進、モノづくり活動のためのプロジェクト、本校の発展に貢献する研究等を募集し、7月に16件のプロジェクトに対してヒアリングを実施し、13件について校長裁量経費を配分した。 8月に、校長裁量経費にて機械実習工場の約半分の床面を改修整備した。 学生を対象とした「キャンパスプロジェクト(課題部門、自由部門)」を募集し、6件に対して校長裁量経費を配分した。
<p>Ⅳ。短期借入金の限度額</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短期借り入れが必要となる事態は発生しない見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期借り入れが必要となる事態は発生しない。

		福井高専平成25年度年度計画	平成25年度実績報告
V.重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計			
VI.剰余金の使途			
VII.その他主務省令で定める業務運営に関する事項	1.施設・設備に関する計画	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の老朽・狭隘に伴う改修工事を実施する。 地域連携テクノセンターの老朽・狭隘・耐震化のための改修工事を実施する。 総合情報処理センター渡り廊下の老朽・狭隘・耐震化のための改修工事を実施する。 障害を有する学生の在学に伴うバリアフリー化対策としての営繕事業の推進を図る。 環境に配慮した機械・設備の導入を引き続き図り、光熱水料の節減に努める。 電力需給率低下に伴う対策として、夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し、省エネを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備補助事業により図書館及び地域連携テクノセンター棟の改修を行った。これらの改修に伴って、人感センサーによる照明装置等の省エネ機器を導入するとともに、図書館では入館者増による狭隘化解消、地域連携テクノセンターではバリアフリー化対策としてエレベータの設置を行った。さらに、改修前の図書館で使用されていたLED蛍光灯を総合情報処理センター演習室等で再利用するなどして有効利用を図った。 総合情報処理センターと本館との連絡通路(渡り廊下)の耐震改築を行った。 障害を有する学生の学年進行に伴うバリアフリー化対策として、学内予算で機械工学科棟1階各実験室入口の段差解消の改修を行った。 夏季及び冬季時には空調設定温度の徹底を喚起し、教職員が巡回により確認するとともに、エレベータの使用についても制限を設け、電力消費は前年度比2.3%の削減となった。 共通部(廊下等)の照明器具の球の間引きを行い、また、昼休みには執務室の照明を切り、コストダウンを図った。 エアコンの集中管理を行い、適正温度管理を行った。 教室照明スイッチに節電啓発シールを貼布した。 エアコンスイッチに適正温度啓発シールを貼布した。
	2.人事に関する計画	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の力量を高めるため、近隣大学や高専・両技科大学への人事交流制度・在外研修制度等を活用する。 男女共同参画を推進し、女性教職員の採用比率の向上を図る。 他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、教職員の一層の能力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の力量を高めるために、高専・両技科大学間の教員人事交流制度を活用し、来年度は富山高等専門学校に1人、石川工業高等専門学校に1人を派遣することを決定した。 事務部職員について、近隣の大学との間で7月1日付け5人、10月1日付け1人の人事交流を行った。 他機関が実施する研修会等に職員を下記のとおり参加させ、知識習得及び資質向上を図った。 ①北陸地区国立大学法人等初任者研修(国立大学法人金沢大学主催)2人 ②東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(大学共同利用機関法人自然科学研究機構主催)1人 ③リーダーシップ研修(国立大学法人金沢大学主催)1人 ④東海・北陸地区国立大学法人等会計事務職員研修会(国立大学法人三重大学主催)1人 ⑤北陸地区国立大学法人等新任係長級研修(国立大学法人富山大学主催)1人 ⑥北陸地区国立大学法人等中堅職員研修(国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学主催)1人 ⑦北陸地区国立大学法人等人事労務研修(国立大学法人福井大学)1人 <ul style="list-style-type: none"> 国際化に対応した職務に必要とする語学力向上を図るため、語学研修を8月から1月にわたって実施し、11人が受講した。
		<ul style="list-style-type: none"> 事務の合理化を進めるとともに、職員配置の見直しを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 50周年記念事業に対応するため、総務課に専門員を配置した。 公的資金の不正防止及び適正な会計処理の機能強化を図るため、常勤職員の配置枠を見直した。
	<ul style="list-style-type: none"> 繰越積立金(目的積立金相当部分)は発生しない見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰越積立金(目的積立金相当部分)は発生しない。 	